

滝沢市地域公共交通計画の最終評価について

平成29年9月に策定された滝沢市地域公共交通計画の計画目標について、計画期間の最終年度にあたるため、その実施状況及び達成状況を確認し、最終評価を行う。

【計画期間】平成29年度～令和7年度(当初:令和4年度)9年間

→令和8年度～令和12年度「盛岡都市圏地域公共交通計画」へ移行

【指標・数値目標・実績値】

基本目標	指標	現況値 (H28)	実績値 (R7)	目標値 (R7)
«基本目標1» 新市のまちづくりを支える 新たな交通網の形成	公共交通が便利で利用しやすいと思っている人の割合	35.1%	27.3% (R6)	31.8%
	乗り換え・乗り継ぎに対する満足度	9.7%	22.6%	7.8%
«基本目標2» 誰でもいつでも安心して利用 できる交通環境の構築	案内等の情報発信方法に対する満足度	16.2%	26.4%	21.1%
	停留所・待合所の快適性に対する満足度	14.5%	37.7%	18.8%
«基本目標3» 地域の特徴・特性に応じ た交通サービスの提供	市民における公共交通の利用割合	33.0%	23.2%	26.4%
	外出時の公共交通の利用割合	20.3%	2.8%	16.2%
«基本目標4» 市民協働による持続可 能な交通の仕組みづくり	各主体と連携した交通サービスの実施件数	0件	19件	12件
	地域と協働した公共交通維持に向けた取り組み 件数	0件	13件	10件

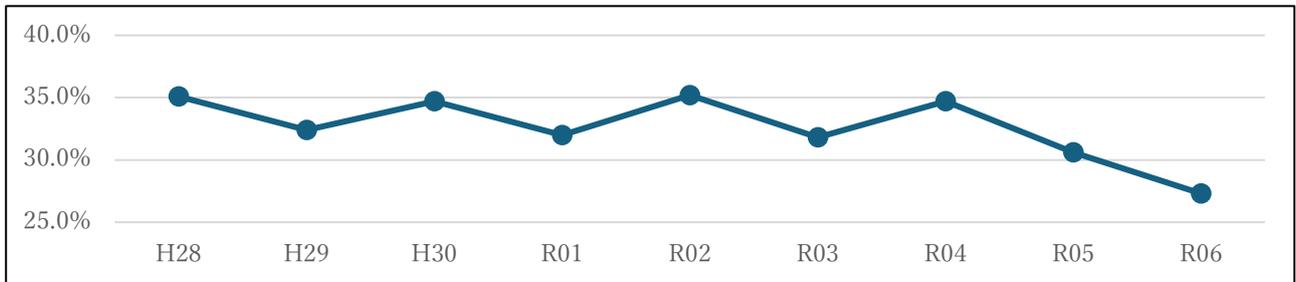
【施策の実施状況】

参照:滝沢市地域公共交通計画 実施施策・プロジェクト一覧表(H29～R7)

【数値目標の達成状況】

指標 1. 公共交通が便利で使いやすいと思っている人の割合

現況値	実績値									目標値
H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
35.1%	32.4%	34.7%	32.0%	35.2%	31.8%	34.7%	30.6%	27.3%	—	31.8%



○出典

滝沢地域社会アンケート調査

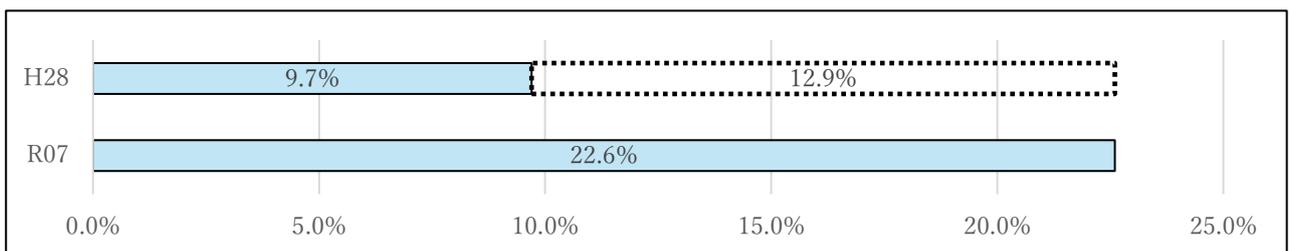
○算出方法

上記アンケート調査による「あなたは、滝沢市内のバスや電車は便利で利用しやすいと感じていますか」の設問に対し、「はい」と回答した方の割合

※数値の設定：H29 計画策定時には現況値から 1 割程度の改善・向上を図ることで設定したが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み下方修正した。

指標 2. 乗り換え・乗り継ぎに対する満足度

現況値	実績値	目標値
H28	R7	
9.7%	22.6%	7.8%



○出典

公共交通に関する市民アンケート調査(H28・R7)

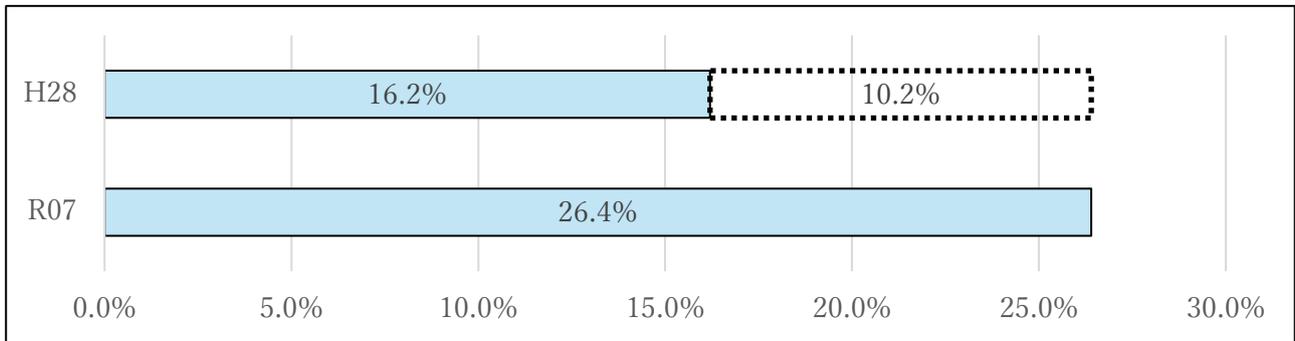
○算出方法

上記アンケート調査による「交通機関同士の乗り換え・乗り継ぎ」の設問に対し、「満足・やや満足」と回答した方の割合

※数値の設定：H29 計画策定時には現況値から 1 割程度の改善・向上を図ることで設定したが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み下方修正した。

指標 3. 案内等の情報発信方法に対する満足度

現況値	実績値	目標値
H28	R7	
16.2%	26.4%	21.1%



○出典

公共交通に関する市民アンケート調査(H28・R7)

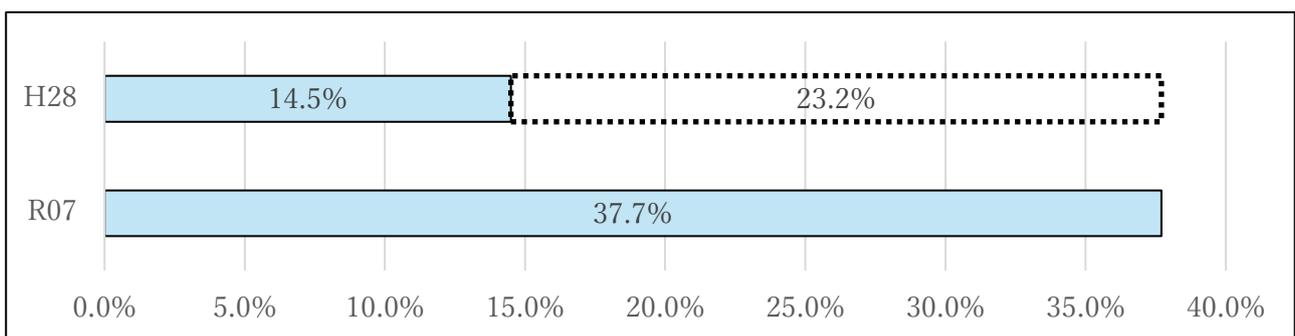
○算出方法

上記アンケート調査による「案内・表示等の情報発信方法」の設問に対し、「満足・やや満足」と回答した方の割合

※数値の設定：H29 現況値から3割程度の改善・向上を図る。

指標 4. 停留所・待合所の快適性に対する満足度

現況値	実績値	目標値
H28	R7	
14.5%	37.7%	18.8%



○出典

公共交通に関する市民アンケート調査(H28・R7)

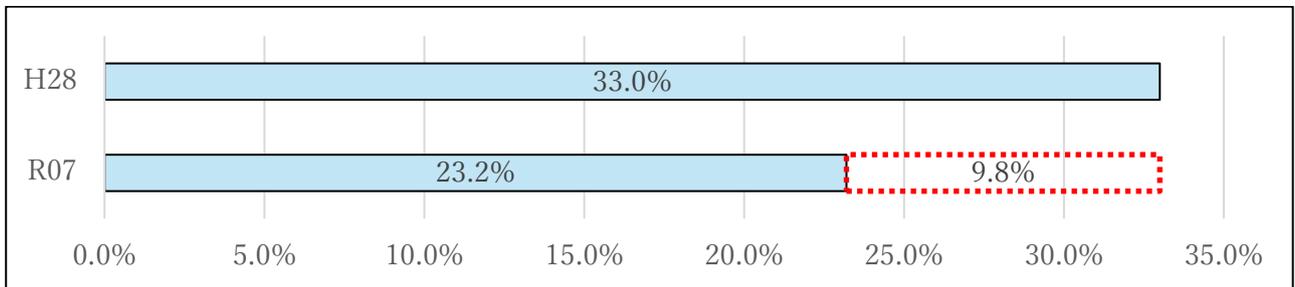
○算出方法

上記アンケート調査による「停留所・待合所の快適性」の設問に対し、「満足・やや満足」と回答した方の割合

※数値の設定：H29 現況値から3割程度の改善・向上を図る。

指標 5. 市民における公共交通の利用割合

現況値	実績値	目標値
H28	R7	
33.0%	23.2%	26.4%



○出典

公共交通に関する市民アンケート調査(H28・R7)

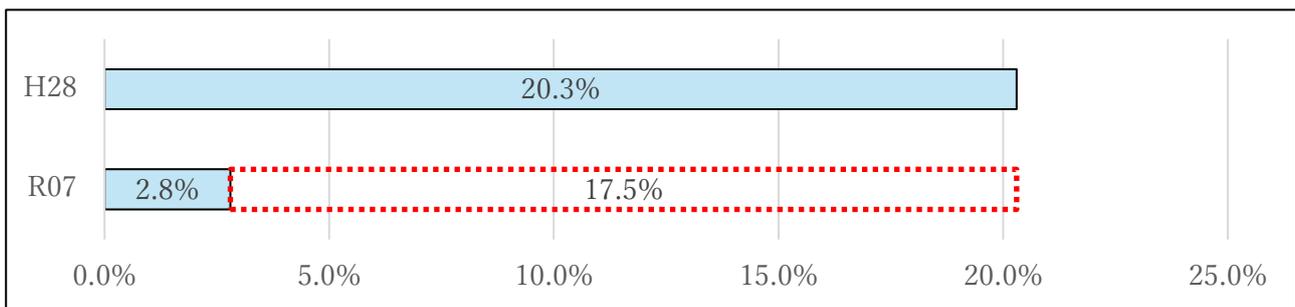
○算出方法

上記アンケート調査による「公共交通の利用の有無」の設問に対し、「日常的に利用している・最近になって利用しはじめた」と回答した方の割合

※数値の設定：H29 計画策定時には現況値から 1 割程度の改善・向上を図ることで設定したが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み下方修正した。

指標 6. 外出時の公共交通の利用割合

現況値	実績値	目標値
H28	R7	
20.3%	2.8%	16.2%



○出典

公共交通に関する市民アンケート調査(H28・R7)

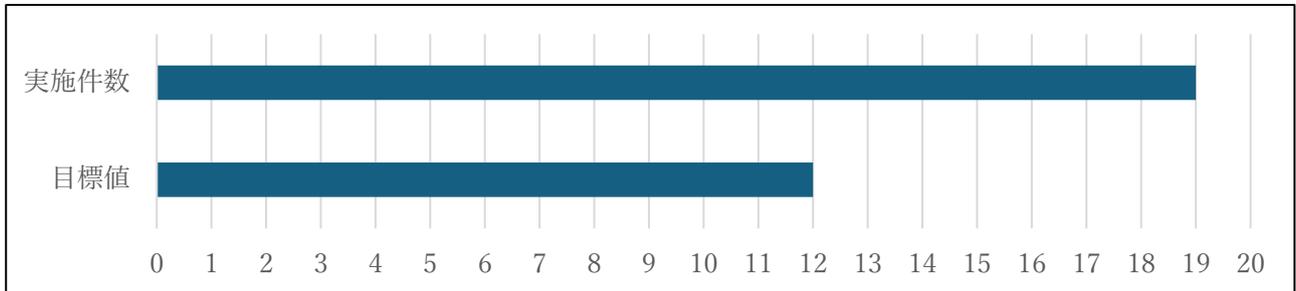
○算出方法

上記アンケート調査による「日常の外出」の設問において、通院・買い物時に公共交通を利用している方の割合

※数値の設定：H29 計画策定時には現況値から 1 割程度の改善・向上を図ることで設定したが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み下方修正した。

指標7. 各主体と連携した交通サービスの実施件数

現況値	実績値									目標値
H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	12件
0件	1件	2件	3件	1件	2件	3件	2件	3件	2件	



○出典

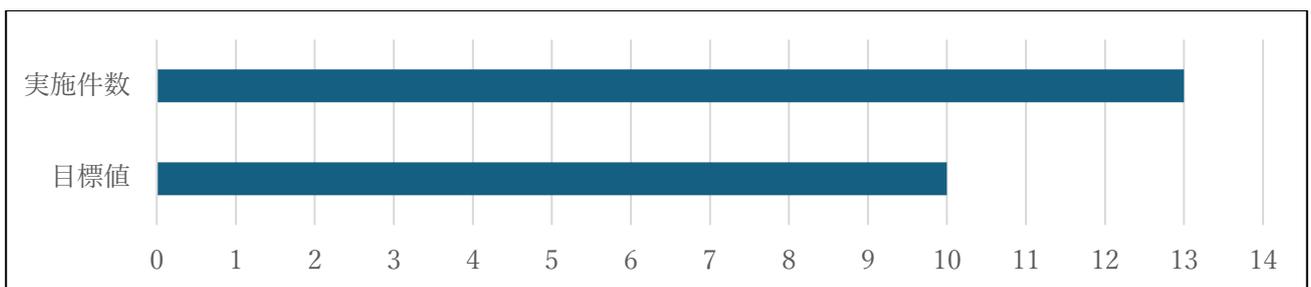
施策・事業実施の実績

○算出方法

観光・商業・学校・企業等の各主体と連携し、施策展開を図った件数(計画期間9年の総計)

指標8. 地域と協働した公共交通維持に向けた取り組み件数

現況値	実績値									目標値
H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	10件
0件	1件	1件	2件	1件	1件	1件	1件	3件	2件	



○出典

施策・事業実施の実績

○算出方法

意見交換会・検討会・シンポジウム等の実施や公共交通維持に向けて地域と協働した取り組みの件数

各施策実績(～R7)

指標7:各主体と連携した交通サービスの実施件数

- ① H29 県立大学生による小岩井地区の意見交換会
- ② H30 県立大学、(株)玄と協働による「たきざわバスまつり」の検討・実施
- ③ H30 チャグバス
- ④ R1 チャグバス
- ⑤ R1 県立大学と協働による交通マップの作成
- ⑥ R1 県立大学生による「転入者モビリティマネジメント」の検討・実施
- ⑦ R2 県立大学生による「IGR ラッピング車両を活用した利用促進案」の検討
- ⑧ R3 チャグバス
- ⑨ R3 県立大学生による「橋場線 100 周年記念事業で実施するイベント等」の検討
- ⑩ R4 チャグバス
- ⑪ R4 多数の企業・学生等との連携による「たきざわのりものフェスタ」
- ⑫ R4 橋場線開通 100 周年記念イベント(式典・小岩井ウォーク)
- ⑬ R5 チャグバス
- ⑭ R5 小岩井駅復元リニューアル式典
- ⑮ R6 チャグバス
- ⑯ R6 県立大学生による交通施設(小岩井駅)を利用したまちづくりへの政策提案
- ⑰ R6 陸上自衛隊岩手駐屯地でのバス運転士体験乗車
- ⑱ R7 チャグバス
- ⑲ R7 小岩井駅国登録有形文化財登録記念イベント(式典・小岩井ウォーク)

指標8:地域と協働した公共交通維持に向けた取組件数

- ① H29.12.16 小岩井地区意見交換会 25名の市民が参加
- ② H30.2.22 公共交通シンポジウムの開催(自治会長向け)
- ③ H31 小需要地域(姥屋敷・柳沢地域)でのアンケート調査の実施
- ④ H31 高齢者サロンでの意見交換による公共交通マップの作成
- ⑤ R2 小需要地域の移動サービス検討に係る地域ヒアリングの実施
- ⑥ R3 小需要地域の移動サービス検討に係る地域ヒアリングの実施
- ⑦ R4 小需要地域の移動サービス検討に係る地域ヒアリングの実施
- ⑧ R5 小需要地域におけるワークショップの実施
- ⑨ R6 小岩井駅まつり(夏・冬)の開催
- ⑩ R6 柳沢地区福祉バスツアー
- ⑪ R6 柳沢子ども会遠足(IGR利用)、柳沢小学校課外授業(福祉バス利用)
- ⑫ R7 柳沢地区福祉バスツアー
- ⑬ R7 小岩井駅まつり(夏・秋)の開催

【基本目標に対する評価】

基本目標	評価
<p>《基本目標1》 新市の「まちづくり」を支える新たな交通網の形成</p>	<p><地域間幹線軸(路線バス)の維持・確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県交通の路線バスがビッグルーフ滝沢に乗り入れるルートに再編したことにより、盛岡方面・滝沢営業所方面行の便が約 20 分おきに発着するとともに、元村地区から市役所周辺への足が確保され利便性が向上した。 ・交通事業者への物価高騰等に対する支援金の交付、赤字補填、ドライバー確保を目的とした各施策等を行うことで路線の維持及び確保に寄与した。 <p><地域内連携を見据えたネットワークの形成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心商業施設の開業に伴い、課題となっていた福祉バスと患者輸送車の再編に向けた検討を実施。利用者や交通事業者等の関係機関へのヒアリングを行い、ルートやダイヤ等の見直しによる市民ニーズに合った便利で利用しやすい新たなコミバスの運行を令和 8 年 10 月より開始予定。 <p><まちづくり・観光と連携した施策展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャグバスやラッピング列車の運行等、市の観光事業とタイアップすることで公共交通の利用促進に寄与した。 ・小岩井駅舎を交流拠点とした地域住民による自主活動等を推進するとともに、橋場線 100 周年や国登録有形文化財への登録を記念するイベントの開催において、さまざまな団体や企業、地域と連携した観光PRを行うことで、地域の活性化に寄与した。
<p>《基本目標2》 誰でもいつでも安心して利用できる交通環境の構築</p>	<p><公共交通における情報発信等の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通マップ及び各種リーフレットの作成、市HPや広報たきざわ、滝沢NAVI等の様々な媒体による情報発信を積極的に行うとともに、さまざまなイベントの開催を通じた周知活動を行い、公共交通の認知度向上に寄与した。 <p><交通拠点等における交通環境の改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な拠点となる市役所やビッグルーフではデジタルサイネージの設置を行い、滝沢駅や巣子駅ではIGRとのコラボデザインによる駅名標や乗り継ぎ案内看板を設置することでわかりやすい案内表示に努めた。 ・小岩井駅活性化事業により、待合機能や送迎時の交通環境が改善され、利用者の安全が確保されるとともに利便性が向上した。

	<p><バス停環境の改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所及びビッグルーフ滝沢のバス停にベンチやボックスシェルター、LEDソーラー式のバス停標識等を設置し、バス停環境の改善に寄与した。
<p>《基本目標3》 地域の特徴・特性に応じた交通サービスの提供</p>	<p><地域特性に応じた交通サービスの提供></p> <ul style="list-style-type: none"> ・姥屋敷地区、柳沢地区において、小需要地域における最大の移動需要を把握するための実証実験やワークショップ等を実施し、既存の交通サービスの活用を促す機会の企画等、地域主体の取組の推進に寄与した。 <p><交通弱者の外出支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・回数券や通学定期券の購入費用に対する補助(助成)を行うことで、交通弱者の経済的負担の軽減に寄与した。 <p><交通サービスの改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各交通事業者が主体となり、様々な企画乗車券等のサービス企画や異なる事業者で連携した施策等を企画することで、さらなる公共交通の利用促進に寄与した。
<p>《基本目標4》 市民協働による持続可能な交通の仕組みづくり</p>	<p><公共交通に対する市民意識の醸成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民を対象とした意見交換会や自治会長及び職員向けの公共交通セミナーの実施を通じて、公共交通に対する意識醸成を図った。 ・児童向けの乗り方教室鉄道や安全教室等を開催し、公共交通利用時のルールやマナーを習得し、公共交通に対する意識醸成に寄与した。 <p><地域協働による公共交通維持に向けた活動支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉バスツアーやボランティア輸送等、地域が主体となって公共交通を支える活動に対する支援を行うとともに、現在、市内全自治会を対象とした地域内交通の取組の需要を把握するためのアンケート調査を実施しており、新たに活動を希望する地域があった場合、実行体制構築に向けた支援を行う。 <p><多様な主体と連携した取り組みの展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生が市の公共交通課題を取り上げ、その中からテーマを決め、実現可能な解決策を企画提案する授業の展開や学生アルバイトの雇用等、日頃から公共交通を利用する機会が多い大学生の視点や意見がさまざまな施策を実施する力となった。 ・さまざまな企業や団体から多大なる協力を得ることで各施策を実施できたことから、さらなる公共交通の発展に向けて、今後も意見交換を密に行いながら連携を強化し、信頼関係を構築していきたい。

最終評価

計画期間中、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う利用者減少や物価高騰、担い手不足など、公共交通を取り巻く環境が一段と厳しさを増す中で、将来にわたり持続可能な地域公共交通ネットワークを構築するため、本計画に基づく各施策の推進するにあたり、地域住民や利用者、交通事業者、大学生など多様な主体との意見交換を積極的に行い、信頼関係の構築に努めた。

具体的には、関係機関との連携を通じて福祉バスおよび患者輸送車の再編に向けた検討を進めたほか、地域内交通の仕組みづくりを目指し、タクシー車両を活用した実証運行の実施、地域住民主導による福祉バスツアー企画への支援、陸上自衛隊との連携による運転士確保の取組、さらには各種イベントなどを通じた利用促進施策に注力することで、公共交通の維持・確保に寄与した。

計画全体の評価・検証としては、上述の施策展開により一定の成果が得られたものと認識しているが、今後も続く人口減少や生活様式の変化を踏まえると、将来にわたり公共交通を維持・確保していく上での課題は依然として山積している。

今後も、地域生活を支える基盤として公共交通の重要性を改めて認識し、市民の多様な移動ニーズや実際の利用者の声を分析したうえで、新たな輸送手段の導入などについて柔軟に検討する必要がある。合わせて、デジタル技術(DX)の活用による利便性向上や、福祉・観光・教育など他分野との横断的な連携を強化し、利用者の増加と持続可能な運行モデルの確立に向け、積極的に取り組むべきと考える。

今回の評価・検証の結果を踏まえ、今後は次期計画である「盛岡都市圏地域公共交通計画」において、交通圏全体を見据えた連携・協働による施策展開に努めるとともに、市内で完結する移動課題についても地域住民や利用者のご意見を丁寧に向いながら、これまで積み重ねてきた施策を継続・発展させることで、市内における公共交通の一層の充実を図っていきたい。